

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほのりこ			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日 ~ 2025年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日 ~ 2025年 12月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 29日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自分の意思を伝える機会をもち、自分で決めて行動してもらう。	一日の中でプログラムを一つ予定しているが、参加は強制ではなく、子どもたちの意思を確認し、参加してもらっている。プログラムに参加しない場合は何をして過ごすのかを伝えてもらい、自身で言ったことへの責任をもち、行動してもらう。	プログラムの内容のレパートリーを増やしていく、子どもたちの経験につなげていく。
2	集団の中で過ごすことでお友だち、職員とのやりとりを経験し、コミュニケーション力を身につけることができる。	集団活動以外でも子どもたち同士で遊ぶ機会をもち、できるだけ子ども同士でやりとりをするようにしている。職員の介入は最小限にしている。	集団活動でお友だちや職員とのやりとりを入れていく等、コミュニケーションを取りやすい環境を今後も整えていく。
3	定期的な面談や送迎時の会話等で一人一人に合った支援、対応を行っている。	定期的な面談では余裕をもった時間を取り、保護者の方に十分に話をもらえるようにしている。保護者の方がどこに問題を感じているのか等、十分に話をする中で見えてくるものがある。	送迎時に対面で話することで普段の子どもたちの様子、ご家庭の様子を知ることができるため、普段からの会話を大切にし、職員間での共有をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちの普段の様子を伝えるツールが少ない。	現在、子どもたちの様子を伝えるものとして連絡帳、送迎時、定期面談、インスタグラムでしか情報提供ができない。	各保護者のLINE等で子どもたち一人一人の普段の様子を写真で伝える等、現在しているものとは別の方法に取り組む必要がある。各誕生日カードに各自の普段の様子の写真を載せる等、工夫をしていく。
2	非常勤スタッフと情報共有をする時間が少ない。	職員がそろう機会が少なく、情報共有が十分でない。 お迎えの少し前に出勤のため、話す時間があまりなく、支援が開始してしまっている。	お迎え時間より余裕をもって出勤してもらい、情報共有する時間を設ける、ミーティングの時間を作る等、工夫をしていく。
3	事業所外とのつながりの希薄さ。	地域とのつながりや児童館等、事業所以外とのつながりをなかなかもつことができていない。	長期休みのイベントで地域との交流を提案していく必要がある。